



えんじゅ

春日市立春日小学校
校長室便り No.4
令和4年5月24日
文責：校長 福島

つながっている



ケーブルステーション福岡のニュースで、6年生がインタビューに答えていました。「去年の6年生の表現を見て、すごいなあと思いました。それに負けない表現ができました。」閉会式では、6年生の横に整列した5年生が自分たちで号令をかけ合って整列をしています。立派な態度です。6年生の走競技では「がんばれー」自然に友達を応援する声が聞こえてきます。同じ声が、入学して1か月余りの1年生の走競技で1年生からも聞こえていました。

中学1年生が運動会を見に来てくれました。「校長先生ー！」私にも声を。うれしいことです。「小学校に戻りたいです！」中学校が嫌なわけではないのでしょうか、懐かしさやほっとした温かさにふれて出てくる言葉なのでしょう。春日小では、潤いのある学校を目指して子供一人一人のありのままを認めることが第一歩です。卒業した中学生がそんなところに温かさを感じてくれていたとしたらうれしいです。

春日小にはいい循環があります。その循環であたたかい学校文化ができ、素直な心が育ちます。先生たちは熱意をもって指導をします。その指導を素直に力に変えていく器が子供に育っている感じがします。演技を終えた子供たちを見て目に涙を浮かべている職員がいました。子供たち、幸せだと思います。

運動会という特別な場だからこそ表面化する課題もあります。子供間のトラブルであったり、ストレスとの付き合い方であったり。しっかりと向き合っていきます。特別な場だからこそ成長の大きなきっかけになると思っています。

私は「一生の思い出は何か」と聞かれたら「高校3年の運動会」と答えます。青春まっただ中、仲間と熱く燃え、ほろ苦い結果を味わったすてきな思い出があります。40年前の出来事です。今の私の生き方の一部につながっているように思います。日々、子供たちが経験しているすべてのことが生き方の基礎をつくっていることを自覚し、これからも子供にかかわっていきます。

子供間、子供と先生、保護者・地域の皆様と学校、たくさんの「つながり」を感じた運動会でした。そういえば、冒頭に書いたニュース番組の名前も「つなGO!!GO!!!」でしたね。